



平成23年7月28日

福島大学との連携協定調印について

長崎大学は7月28日、福島大学（福島市、入戸野修学長）との間で連携協定に調印した。福島大学での調印式に、片峰茂学長が出席した。

両大学は福島第一原子力発電所事故を契機として、教育・研究分野において一層の緊密な連携・協力関係を構築することに合意した。今回の協定締結により、両大学は、放射線が健康や社会に与える影響について創造的・先駆的な教育研究拠点の形成を推進し、我が国および両大学が位置する地域の発展と人材の育成に寄与することをめざす。

今回の協定は、①教育研究、②学術研究、③教職員の相互交流、④地域社会および国内外の教育研究機関との連携を含めた包括的なもので、具体的な案件や協力内容については個別に委員会を設置し、協議のうえ決定する。

協定の有効期間は平成28年3月31日までとしている。

【問い合わせ先】

長崎大学研究国際部産学官連携課 Tel : 095-819-2878

会場の写真をご希望される場合は下記へご連絡ください。

広報戦略本部：田村 電話090-6774-0217

国立大学法人福島大学と国立大学法人広島大学・国立大学法人長崎大学
との連携協定締結に寄せて

この度の東日本大震災とそれによって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所の事故、この大きな複合災害を受けた福島県は、国際的に知れ渡るところになりました。今「Fukushima」の住民は、こうした困難を乗り越えて被災地を復旧・復興させようと頑張っています。

福島大学は、災害直後から、現時点で起こっている事実を科学的に調査するいくつかの支援プロジェクト調査研究を実施し、それらの調査情報に基づき被災地の将来的推移を見通し、地元福島県の復旧・復興を長期間継続的に取り組もうと、4月に「うつくしまふくしま未来支援センター」を設立しました。

このセンターの目的を達成するためには、福島県、関係自治体、経済団体はじめ他大学、他機関とも密接な連携協力を図り、また、福島大学が現有する環境関連分野、地域政策、教育・心理学・福祉関連などの分野に、本学には欠けている新たな研究分野、特に放射線関連、エネルギー関連分野の専門家等を加え、天災・人災に強い世界の災害科学の拠点と位置付け、長期に渡る復興支援体制を確立する必要があると考えました。

この度協定を締結する広島大学および長崎大学は、これまでに、本県において放射線関連の数々の支援活動を展開されてきております。

この度連携協定を締結することで、双方の研究資源を連携活用して、教育研究機関としての研究および人材育成のより一層の充実が図られるばかりでなく、わが国における学術および科学技術の進展および福島県の復興に寄与することが期待されます。福島大学としては、両大学と教育・研究分野における緊密な連携・協力関係を構築することで、「うつくしまふくしま未来支援センター」を一層発展させて復旧・復興や災害に強い地域づくりを進める、世界の災害科学の拠点にしたいとも考えております。また、この度の協定締結により本学の学生に対する放射線教育の充実等も図れるものと期待しております。

当面は、具体的な連携体制をより早く具体的なものとして確立することとし、刻々と状況変化する現状に対して適切な支援対策を実施し、福島県の復旧・復興支援の実を挙げるべく努力したいと思っております。

福島大学長
入戸野 修

2011年7月28日

福島大学との連携協定締結に寄せて

東日本大震災の発生以来、長崎大学は福島県において、被災地医療支援や緊急被曝医療、放射線健康リスク管理など多面的な支援活動を行ってまいりました。こうしたなかで本日、福島大学と連携協定を結ぶことになり、長崎大学長として、感慨深いものがあるとともに、福島県民の皆様に対する責務の重さを改めて感じているところです。

福島大学との連携協定締結につきましては、6月22日に開催されました国立大学協会の会議の際に、入野野福島大学長からお話しを頂きました。大気中の放射線量測定や土壌中の放射性物質調査などの実績がある福島大学と長崎原爆やチェルノブイリなどでの被曝医療や被曝健康影響研究を積み重ねてきた長崎大学が連携協定を締結することにより、医学分野のみならず環境学、社会科学、工学など幅広い分野にわたって人材養成や知識の共有、さらには今後の研究促進などの面で福島での復興支援に貢献できると考えております。

地震と津波、さらには原子力災害に見舞われた福島県の復興には、じっくりと腰を据えた、オールジャパンでの長期にわたる支援が必要となります。本日の福島大学と広島大学、福島大学と長崎大学の連携協定の締結が大学間の連携を深め、福島県の復興に向けた重要な一歩となるよう努めてまいります。

長崎大学長 片峰 茂